

# 「父なる神の愛 その愛で愛する」

第一ペテロ 1:21-22

私たちは人のことはよく見えます。でも、自分のことが見えません。イースターは、イエスキリストが十字架にかかる中で人の愚かさがどれほどなのか、それをもう一度見るための最大の犠牲であり、神の愛です。

『あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。』（ペテロ I 1:21）

『あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。』（ペテロ I 1:22）

この「愛する」はヘブル語で「アハブ」。このことばが聖書で最初に出てきたのは、創世記 22:2 です。

『神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。』（創 22:2）

「あなたの愛しているひとり子イサク」、これです。みなさんはペテロ I をこのように読んだことがありますか。その愛は、アブラハムが何年も何年も待って、神のことばを信じて与えられたイサクをいけにえに捧げるためモリヤの地に連れて行ったのです。我が子に剣をさすわけです。でもアブラハムは神さまに言われ、すぐに従ったのです。自らだまってほふり場に行く子と、それをあやめなければならない父の姿、この両方をペテロは手紙に書いたのです。愛するというとは、この二つが必要なのです。同情ではだめなのです。情によってとった行動は、自らを滅びに導きます。本当の愛に基づく情でなければいけません。感情は悪いものではありません。しかし、感情的なのが悪いのです。本物でないからいけないのです。私たちは、イエスキリストの復活を見て安心したから、なぜこうなったかをもう一度考えなければならぬのです。あなたの人生は、痛みが伴う出来事でも、どんなに無理なことでも、どんなことでもあなたが従うなら、神はあなたに栄光をあらわす備えがあるのです。イエスは、十字架にかかって最後に「我が霊を主の御手にゆだねます。」と言うのです。すると神殿の幕が真二つにさけたと書かれています。全てのルール、教え、価値観が積み上げられている神殿の幕が真二つにさけるとは、過去との断絶です。人間的な伝承が断ち切られて新たになったこの朝、今までのあなたの愛し方を変えなければいけません。

## ■ あなたは本当に愛するか

「我が神、我が神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」と言ったように、イエスは一番信じていた人から裏切られなければなりません。そして「我が霊を御手にゆだねます。」と言って終わるわけですが、なぜ「我が霊を御手にゆだねる」ということばを使ったのでしょうか？当時ユダヤ人は寝るとき「我が霊を御手にゆだねます。」と言って寝ていました。ですから、これは特別なことばではないのです。

イエスキリストは十字架に生きた33年間、そして創世記1章からスタートする一日、一日。神はそれを見て良しとされました。イエスキリストは、この1日の仕事と生涯の仕事が終わらせて何をしたかという、休んだのです。誰であれ、どうであれ、行ないなんて関係ないのです。最後にその人が信じたならそれでいいのです。しかし、なぜ最後に「我が霊を御手にゆだねます。」と言って、そのことばを用いてペテロが「愛せ」と言ったのか？それはアブラハムの愛とイサクの従順とイエスキリストの従順と父なる神の愛を思い出しながら、あなたが1日1日を「我が霊を御手にゆだねる。」と決断しつつ愛せ、と言ったのです。それは神のことばに従順に大切なものを犠牲にする思いで愛せ、と言ったのです。情でなく、その人を本当の姿に導くため犠牲になってもその人を導く愛です。アガペーの愛は、その人を祈り、その人を変えるという神の計画に従おうとする姿です。

## ■ 復活に生きる

十字架にかかって死ぬことと復活することは、同じくらい大切なテーマです。なぜなら、あなたが背負ってきたものが一度終わって新しくなるということだからです。

## ■ 過去を捨てる

あなたがまちがった感情で子どもを導くのは、それまでのあなたの過去のさまざまな思いからです。あなたが言われてきたこと、語られてきた伝承、あなたが習ってきたことは、本当の愛に生きることを閉ざしていないでしょうか？あなたが正しいと信じてやっていることは本当にそれでいいでしょうか？十字架は、あなたが正しいと信じてきたことを覆すためにあるのです。

聖書は「真理」ということばを使って、その中にあるのは「愛」と言っています。あなたは、本当にその人を愛するが故の行動をとっていますか？アブラハムは、人類の父となるために神である父の思いを知らなければならなかったのです。父なる神の愛は、犠牲をも行なうというものです。そしてその神は、犠牲を行なわせた後にもその犠牲を益に変えることができるということをアブラハムは信じたのです。失うほどの決意は、愛があればできると神は言われました。それは愛は全ての人に備わっているからです。しかしその愛は、今、死んでいます。イエスキリストを信じる信仰によってあなたはその愛を復活させることができます。イエスキリストは十字架にむかい、命をかけてあなたのために犠牲をはらいました。そしてそれを完成させた朝、トマスの前にあらわれたのです。大失敗したペテロに「反対側に網をおろしてみろ。」と言うのです、彼らが心を開ける方法で。十字架とは、私たちが素直になる道具です。

あなたが新しく生きるための方法は愛し合うことです。例え、相手があなたを裏切っても憎んでも、あなたはその人を愛するということです。それは同情ではなくその人が本当の姿になるように、あなたが伝える生き方です。あなたが死んで、あなたの子は本当に正しく生きていけますか？イエスキリストは正しい選択をさせるために、自らが正しい選択をする生き方を見せました。親が正しい選択をする姿を見せることです。間違ったとき改める姿です。誰かのために正しい生き方をしているのが正しいのであり、与えることが正しいではありません。あなたは今、本当に正しい決断をしていますか？うとわかれても嫌われても、その場所にあって本当に愛を持って生きていますか？真実の愛は全てを結びます。イエスキリストは十字架で全世界を覆し、神殿の幕を真二つに裂き、過去と全てを帳消しにして今を新しく造りかえたのです。

## ■ さいごに

みなさん、今日、目を覚ましてください。間違った判断を貫かないでください。あなたの大切な存在が間違った道へ歩もうとしたとき、あなたは身を挺してでもそれを止めるのが仕事なのです。これが愛です。相手は言うでしょう。「そんなこと知るか。おまえの言うことは聞かない。」でも、それでもいいのです。十字架にかかって死んだ瞬間、人々は悔い改めるのです。最後までわからないのです。愛は貫かなければ答えはできません。途中では意味がありません。愛は貫いてこそ意味があるのです。親はその子の本質を見抜き、神が造ったものとして、預かったものとして適切なことばで向き合うためにいるのです。アブラハムはそれをイサクに教えました。人類の父になりました。従うこと、これ以上に大きな愛はありません。主がせよと言われたことを行なってください。神は全てを働かせて益とすると約束されたのです。イエスキリストの十字架は伝説ではなく、覆すことができない真実です。「わたしにつけてきなさい。」と言われたとき、「本当の真実の愛で愛するものになりたい。」と是非祈ってください。神は一人一人のために、一人一人はみんなのために生きるのです。神はあなたのために、そしてあなたは全ての人のために遣わされているのです。

(要約者:秋山 恭子)

(2021年4月4日)